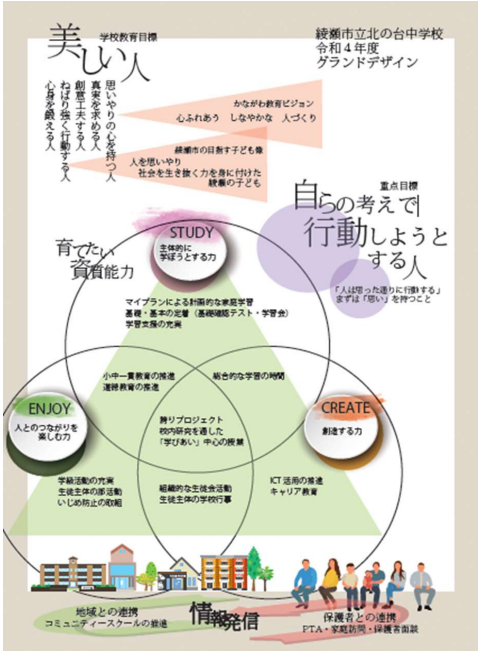
令和４年度　　綾瀬市立北の台中学校　学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	（学校教育分野）　人を思いやり　社会を生き抜く力を身に付けた　綾瀬の子ども	
学校教育目標	美しい人 ・思いやりの心を持つ人 ・真実を求める人 ・創意工夫する人 ・ねばり強く行動する人 ・心身を鍛える人	
学校経営方針 （グランドデザイン）		
今年度の重点目標	重点目標　　自らの考えで行動しようとする人 「人は思った通りに行動する」　まずは「思い」を持つこと　（心を育てていきたい） 育てたい資質能力　・主体的に学ぼうとする力（STUDY） ・人とのつながりを楽しむ力（ENJOY） ・創造する力（CREATE）	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1　学習指導	学校は、「真実を求める人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	昨年度に比べて「そう思う」の生徒と保護者の割合が増加しました。また、７割以上の生徒が意欲的に授業に取り組み、定期テスト前も学習計画作りをはじめ積極的に学習に取り組んでいます。また、６割以上の保護者も、意欲的に学習に取り組んでいると肯定的な回答をしています。今後も生徒の学習意欲を高められるように授業研究を推し進めるとともに、家庭での学習習慣の定着をめざした具体的な支援に取り組み、自ら学び、自ら考える「真実を求める人」の育成に一層努めていきます。
2　教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	保護者、生徒ともに９割以上が「学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している」の設問に肯定的に回答しています。様々な活動において、主体的に活動することで、達成感や充実感を味わうとともに、協力する大切さを学ぶ生徒が多くいます。今後も部活動の活性化、生徒会本部を中心とした実行委員会、専門委員会の活動の充実を目指し、主体的に行動できる生徒の育成に努めていきます。
3　児童・生徒指導	学校は、「思いやりの心を持つ人」を育てる指導を積極的に行っている。	およそ９割の生徒や保護者が「友人に対して思いやりの気持ちを持って接している」と回答し、教職員も、「生徒の良好な人間関係作りに努めている」と、肯定的な回答が増えています。今後も、「特別の教科　道徳」の時間を要として、学校生活における様々な場面で、自分や相手のことを思いやり、互いの良いところを尊重し合う気持ちを育てていきます。「朝読書」は１日を落ち着いた気持ちで始めることに加え、豊かな人間性の育成に重要な役割を果たしています。今後も継続していきます。
4　児童・生徒指導	生徒は友人や先生との学校生活に満足している。	９割近い生徒が学校生活を楽しく過ごしていると回答しています。今後も普段の学校生活を通して、社会の一員としての公平、奉仕、公共心などのモラルを定着させるとともに、豊かな人間関係づくりに努めていきます。一方、学校生活を楽しく過ごせていない生徒がいることにも向き合い、いじめ防止対策の取組として、引き続きスクールアンケートや個別面談を行い、生徒の状態を適確に把握していきます。また、学級活動等でソーシャルスキルトレーニングを計画的に実施し、生徒の人間関係作りをサポートしていきます。

5　児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	６割以上の保護者が肯定的な回答をしています。しかし、ほぼ、全ての教職員が肯定的に捉えていることに比べ、保護者と教職員の間にまだ差がみられる現状があり、引き続き、授業、道徳、学校行事など全ての教育活動を通して、生徒一人ひとりが大切にされる学校・学級づくりを目指した指導に努めていきます。さらに、学年だより等で、引き続き教育相談やスクールアンケートを実施している情報を発信します。また、今後もＳＮＳトラブル防止教育を学級活動の時間に定期的に行うことや、日常の生徒への声掛けや面談を行い、生徒との信頼関係を築き、保護者との連携をより深めて、いじめ防止教育に努めていきます。
6　保健管理	学校は、「心身を鍛える人」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。	７割以上の生徒・保護者は自分の健康や体力に関心を持っています。これからも保健・食育指導等を充実させ、生徒の健康や体力への関心を高めていきます。また、学級担任、部活動顧問、養護教諭、栄養教諭、SC、ＳＳW、保護者と連携し、心身ともに健全な生徒の育成に努めていきます。
7　安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	全ての教職員は、生徒が安全な生活を送るための指導と施設点検・整備を行っていると回答しています。今後も校舎内外の点検・整備に努め、生徒に対する防災指導も充実させていきます。引き続き、消防・防災計画に基づき災害発生時の生徒の安全確保にも全職員で取り組んでいきます。
8　支援教育	学校は生徒に応じた支援の工夫をしている。	全ての教職員が生徒に応じた支援の工夫をしていると回答しています。今後も、様々な課題を持つ生徒に対して、教職員、学習支援者、ＳＣ、ＳＳWが支援を行い、必要に応じて外部機関と連携し、必要な支援を検討し手だてを考えていきます。毎週行われている情報交換会で、課題のある生徒の現状と、必要な支援を検討し、全職員で情報共有して、一丸となって同じ方針で生徒を支援していきます。
9　組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	８割以上の教員が、各グループが連携し、円滑に職務が遂行されていると回答しています。今後も教育目標の具現化を目指し、グループ会議、企画会議、職員会議、学年会議を行いながら情報の共有化を図り、組織的かつ効率的な学校運営に努めていきます。２割弱の教員が他グループとの連携が図れていないと感じていることから、グループ間の連携や情報共有も積極的に行い、全教員で教育活動を行っていきます。さらに、グランドデザイン・重点目標の達成、育てたい資質・能力の育成を目指して、各グループで取組を検討していきます。
10　教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	多くの教員が教師の力量を高める校内研修や授業力向上・授業改善を目指して校内研究に積極的に取り組んでいます。来年度も、教員が新学習指導要領に明記された「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、生徒が「わかった」「できた」と感動を味わえる授業を展開していけるように校内研修を充実させていきます。また、校外の研修にも積極的に参加し、その成果を全教員で共有し力量を高めていきます。
11　教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	教職員は9割強が、保護者は８割弱が肯定的に回答しています。しかしながら、保護者と教職員の回答には２割ほどの差があります。今後も様々な教育活動を通して、生徒の実態把握に努め、日頃の取組が保護者に分かりやすく伝わるように今後も情報発信に努めていきます。
12　情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者、教職員ともに９割弱が肯定的に回答しています。年間を通して学校だよりや学年だよりを通して学校の様子を伝えようと努力してきたことに加え、ホームページの開設などにより、学校の情報が伝わりやすくなりました。毎月発行されている学校だよりは、学校で配付するだけではなく、地域に回覧したり、ホームページに一部を掲載したりしました。今後も家庭訪問・懇談会・面談やおたよりを通して、学校生活や授業中の様子等を積極的に発信していくとともに、分かりやすく伝える工夫に努めていきます。

【学校運営協議会からの意見及び改善策】
・学校評価アンケートの保護者の回答数が減少したことについて、回答方法がWebに変わった影響が大きいと考える。学校に対する不満が少ないとも言えるし、学校の作業負担が減ることで、その分生徒の育成に注力できることはよい。しかし、保護者に学校への関心を高めてもらう工夫は必要である。
・基礎基本に困難さをかかえる生徒の苦しさに耳を傾ける必要がある。
・４点固定や家庭教育に関して、親が近くにいるだけで家庭学習に取り組みやすくなると思うので、家庭でも何か出来たらよい。
・支援について、別室での支援も大切な視点だが、日常的な指導の方法でサポートしていけたらよいのではないか。それぞれの先生ができる支援を考えることが大切。全職員が自分の授業の中でできる支援を考えていって欲しい。例えば校内研究と絡めて、「目標や授業の流れ」を伝えることなど、学校全体としての支援の方法を決めていくことが必要なのではないか。
・いじめ対応について、学校だけではなく、地域、保護者と連携して「隙間のない見守り態勢」を作っていきたい。コロナ禍で地域でのサポート、見守りをしてくれる保護者、地域の方々、生徒が、人とのふれあいに慣れていない様子が見られ、以前より接する機会が減っていると考えられる。学校、家庭、地域が連携して「隙間のない見守り態勢」を作ることが大切である。
・学校が積極的に地域とかかわる工夫が必要である。生徒は、見たことのない（地域の）人から声をかけられると驚くのも当然かもしれない。学校としても地域の活動に目を向けてほしい。土日休日の部活動において、地域の行事のときは休みを作るなど、生徒が参加しやすくなるような工夫もしてほしい。
・学校生活に８～９割が満足していても、不満足の生徒がいるという現状を忘れてはならない。大多数がよければ良いとしてはならない。継続して支え、寄り添っていく必要がある。生徒が教員のことを信頼しているのは北の台中学校の良き伝統だと感じる。